

「ハウスクリーニング学・納屋理論」雑感PDF

ハウスクリーニングを毎日行っています。やり方としてフローシートを使い、埃を取り、それからモップでワックス拭きを行っています。床にゴミが多くあれば、掃除機を掛けます。家具、机、置物は雑巾で水拭きを行っています。これらを行って行けば、ハウスはクリーンを保って行けます。これらのやり方をハウスクリーニング学と呼ぶことにしました。本ウェブページでクリーニング学として掃除のやり方を振り返ってみました。

クリーンを維持できればと思い、毎日掃除を行っていますと、或る時、突然汚れが目立って来る場所が発見されます。それまでは目に入らなかったのでしょうか。目立って来る場所をクリーンにすると、また目立って来る場所が出現してきます。掃除の範囲が次第に広がってきます。一方私の子供時代に在った家の納屋は色々な物が雑多に置かれて、綺麗に感じる所では無かったように思われますが、全く気になりませんでした。これを納屋理論と呼ぶことにしました。納屋の状態であれば、現状維持で済みます。

私の家庭が納屋のように雑多ではあるが、気にならないと言うスタンスになれば、そんなに掃除をしなくても、掃除の範囲を広げていかななくてもいいのではないかと思えてきます。どういう条件になれば、納屋理論が実現できるのか、探究してみたいとも思っています